

三木南地区意見交換会 議事録

- 1 日 時 令和3年10月8日(金)
午後7時00分～8時30分
- 2 場 所 三木南交流センター研修室
- 3 参加者 三木南地区 10人
市 8人(市長、副市長、副市長、市民生活部長、
都市整備部長、道路河川課長、都市政策課長、
交通政策課長)
- 4 内 容
 - (1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり
 - (2) 意見交換
 - ア 神戸電鉄志染駅の南北を結ぶ陸橋の設置及び南西側エリア
の再開発について
 - 【三木南地区】
都市計画道路が実際に完成する時期はいつ頃か。目安を教
えてほしい。
 - 【都市整備部長】
整備の実現にあたっては、県の社会基盤整備プログラムと
いう整備計画において実施区間として位置付けていただく
必要がある。県に要望しているが、整備計画への記載には至
っていないため、事業着手時期の目途は立っていない。
 - 【三木南地区】
例えば都市計画道路の完成が約10年後である場合、志染
駅の開発着手も約10年後となるのか。
 - 【都市整備部長】
志染駅周辺の開発についても、都市計画道路の事業内容や
実施時期と合わせて検討する必要があるため、明確な時期は
申し上げられない。
 - 【三木南地区】
具体的な時期等が不明瞭であるため、毎年市政懇談会の議
題にさせていただいている。可能な限り進捗状況等をお知ら
せいただきたい。
 - 【市 長】

都市計画道路神戸三木線は約40年前に策定された計画である。当時は4車線で計画されていたが、人口減少の現状に鑑み、2車線という現実的な形で早期実現できるよう、市としても3年前から要望している。

【三木南地区】

先人から40年から50年前に決定した話と聞いている。

【三木南地区】

人口減少と併せて車の台数も減少しているはずである。

【副市長】

都市計画道路神戸三木線は、現神戸三木線や恵比須駅前の渋滞の解消につながるため、完成後の効果が見込める道路であると県と共に認識している。計画通り4車線で事業化する場合、多額の事業費が必要であることから、2車線への都市計画変更を含めた検討を行ってもらっている。10年ごとに策定する県の整備計画において当該道路を実施区間として位置付けていただくよう県に要望しているが、今後も継続的に市と地域が一丸となって想いを届ける必要がある。

【市長】

県においても、限られた財源の中で、かじや橋の周辺整備や、口吉川地区桃坂から東条に抜ける道路の事業化、志染バイパス東部の拡幅等の大きな事業が集中している。それらの完成に伴い、他の計画も事業化につながると考える。

【副市長】

県としては志染バイパスの整備の進捗状況を見ながら判断したいと考えている。都市計画道路神戸三木線全線の完成ではなく、自由が丘地区の五差路から広野分署へつながる都市計画道路広野自由が丘線までだけでも完成すれば利便性が大きく向上するが、大きな事業であるため進んでいない。

【三木南地区】

事業化できる箇所から進めていくということか。

【副市長】

そういった話を要望しているところである。より効果的に実現できるよう、市としても都市計画道路広野自由が丘線の概略設計等を行っている。

【三木南地区】

三木市は途切れる道が多い。

【市長】

地権者の了解が得られず途中で断念した事例もあるかと思う。県の事業ではあるが、用地買収の際は地域の同意が不可欠であるためご協力いただきたい。

【三木南地区】

広野ゴルフ場周辺から広野小学校への通学路である市道広野北線等は、通行量が多く危険であるため、早期に検討いただきたい。

イ 高和志染線の神戸市内未整備個所の道路整備について

【三木南地区】

高和志染線について、市境までは三木市が整備したが、その先の道路整備を神戸市はなぜ行わないのか。

【都市整備部長】

三木市と神戸市をつなぐ道として現状のとおり整備されたことで一定の効果があると認識されているのかと思う。

【三木南地区】

神戸市が整備を進めなければ効果がないように思う。

【副市長】

高和志染線の未整備箇所については、土地の高低差等の事情により、神戸市は明確なルートや計画を持ち合わせていない。三木市からの整備要望に一定の理解もいただいているが、広い神戸市域と限られた財源の中で整備の順番が回ってきていない。現在、西盛口の交差点の渋滞解消に向けて用地買収を行っているところであるため、車の流れは改善されると思われる。神戸市としても高和志染線の整備は将来的な検討課題として認識していると聞いている。

【三木南地区】

三木市と西神中央をつなぐ道路として、神戸市からも訪れやすくなるような、両市にとってメリットがある計画である必要がある。

【副市長】

人の流れや移動手段等の分析により道路計画を決定しており、現状では神戸市の中で整備の優先順位が低い。整備費

の投資に見合う人の流れがあるかが重要である。

【三木南地区】

神戸方面からの人の流れの増加に向けて、情報公園都市の整備等の雇用促進施策に引き続き取り組んでほしい。

【市長】

神戸市から三木市にどれだけの人が来るのか考えると、神戸市としてはバスや電車等の現在の交通網で十分と考え、優先順位が低いものと思われる。

【三木南地区】

神戸市からは押部谷や緑が丘を經由して三木市に来ることができると、優先順位が低いことは理解できる。

【市長】

西盛口の交差点は渋滞しているが、高和志染線の交差点は渋滞していないため、優先順位が低いことはご理解いただけると思う。なお、都市計画道路神戸三木線が計画された当時は、緑が丘や西神中央の人口増加が見込まれていたと考えられる。実際には人口減少の一途をたどっているため、例えば4車線から2車線へ変更するような、現状に見合った計画変更が必要である。

ウ 三木南地区の交通手段としてのデマンドバスの検討について

【三木南地区】

約1週間前の新聞に西脇市の事例が紹介されていた。西脇市では、デマンドバスの利用者が少なかったため、タクシーに切り替えたところ利用者数が増加したと記載してあった。他市の事例も参考に検討していただきたい。

【交通政策課長】

西脇市は4月から市内全域を対象にデマンド型交通事業を開始し、多くの方に利用いただいていると聞いている。三木市においても、現在吉川地区で行っているデマンド型交通の実績を検証した上で、他地区への展開について検討する。

【三木南地区】

西脇市が行っているデマンド型交通はどのような形態のものか。車両や運転手の提供も西脇市が担っているのか。

【交通政策課長】

西脇市では、市が車両を用意し、運転手についてはタクシー事業者等に委託している。なお、西脇市では利用者数が多いと申し上げたが、人口割で考えると吉川地区のデマンドバスの利用者数と大差はない。

【市長】

三木市は吉川地区でのみ行っているが、西脇市は市内全域を対象としているため、必然的に対象人数及び利用者数が多くなる。人口割で比較すると利用者数に大差はない状況である。

【都市整備部長】

西脇市はバスの路線が少ないため、デマンド型交通が馴染んだものと思われる。

【三木南地区】

三木南ふれあいプロジェクトでは、75歳以上の地区住民を対象にした交通に関するアンケートを実施する予定である。三木市の路線バスの時刻表を見ると、神戸市と比べて圧倒的に本数が少ない。今は自家用車を運転できる人も、将来的に免許を返納した際にはそれに代わる交通手段が必要である。アンケート結果は市に提出する予定であるため、検討材料としていただきたい。

【市長】

神戸市の中心部と比較すると見劣りすると思うが、神戸市北区等の交通網と比較すると三木市の方が充実していると認識している。また、アンケートの主体的な実施は非常にありがたいが、アンケート結果が導入に直結するわけではないことはご理解いただきたい。過去に北播磨医療センター行きのバスについて老人会に調査したところ、大勢の方が利用すると答えられたが、実際の利用者数は非常に少ないという現状がある。

【三木南地区】

確かに日中運行しているバスを見ると、乗客数が非常に少ないことが多々見受けられる。採算性を重視する営利企業であれば現状の乗客数では決して成立しないが、公共交通としては必要であるという難しさがあると思う。

【三木南地区】

三木市の職員は通勤時にバスを利用しているのか。

【副市長】

自家用車で通勤している職員が多いと思う。

【三木南地区】

バスの積極的な活用として、まずは職員が利用することが重要なのではないか。

【副市長】

職員への通勤手当について、自家用車だとガソリン代のみ補助するが、もしバス通勤に切り替える場合、バスの定期代全額を補助する必要がある、大きく費用がかかることとなる。三木市役所も一つの事業主であるため、職員には効率的に働いてもらうことが重要であるほか、北播磨地域の特性として自家用車での移動が定着していることと思う。

【三木南地区】

住民一人一人にとっても同様に、効率を考えると自家用車での移動が主になってしまうのだと思う。

【副市長】

三木鉄道を廃止した際も、代替のバスを運行したところ乗客数が6割から7割減少した。よかたんバスの代替で運行しているデマンドバスについても乗客数は少ない。ご家族やご近所の助け合い等により移動されているものと思われる。

【三木南地区】

例えば三木市の職員が大勢バスを利用されている光景を市民が目にする機会があれば、よいアピールになると思う。通勤にバスを利用できる一部の職員だけでも積極的に乗車すればどうか。

【市長】

神戸電鉄においても同様に、三木上の丸駅で職員が大勢降車すれば市民へのアピールになるというご意見をいただく。市民一人一人がご理解いただき、休日の外出の際に1回でも公共交通を利用いただければ、年間8万人の利用者数の増加につながる。

【副市長】

免許を返納した際の交通手段を心配されている方が多い

が、運転できなくなるぎりぎりまで返納されない方が多いため、公共交通機関の利用者数は少ない傾向がある。

【三木南地区】

三木南地区については、バス停は多いもののバス停に行くまでに自家用車やバイクに乗る必要がある場合があり、さらに高齢化が進むとバス停に行く交通手段がなくなってしまう。地域としても、各自治会においてバス停から一番遠い人の移動距離等の資料で知見を深めながら、行政と一緒に将来の高齢化に備えていきたいと考えているためご協力いただきたい。

【副市長】

ご指摘の通りである。ただし、デマンド型交通の運用は難しく、三木南地区においては既存の路線バスとの共存に向けた役割分担を十分に検討する必要がある。デマンド型交通が成功したと言われている丹波市においては、一本のバス路線のみ残し、その他の既存の路線をすべて廃止してデマンド型交通を導入した。外出支援や移動手段の確保として、どのような形でならご要望に応えられるか、地域と一緒に検討させていただきたい。

【三木南地区】

三木市区長協議会連合会での意見交換において、利用できる店舗が近くにない口吉川地区では買い物弱者への支援が課題であると聞いた。店舗の誘致も難しいと聞くため、公共交通の充実によって、どの地区にも買い物弱者がいない三木市を目指していただきたい。

【市長】

志染地区ではコープのワゴン車が店舗まで送迎する買い物行こカーの事業を試験的に導入しているが、口吉川地区では移動距離等の制約があり、現在移動販売車の運行について市と地域と一緒に検討しているところである。なお、店舗等の存続には地域の買い支えが不可欠であるため、地域としてもご協力いただきたい。

【三木南地区】

さつき台の空地に商業施設が完成したことで周辺住民は非常に感謝している。歩いていくことで運動にもなり、買い

物も便利になった。

【三木南地区】

三木市の快適で住みよいまちづくりのため尽力いただき感謝申し上げます。今年3月、女性自身という全国紙において、三木市が住みやすいまちとして大阪圏で2位、兵庫県内で1位と発表された。住みやすいまちと住みたいまちではニュアンスが違うが、今後住みたいまちというランキングがあった際には、兵庫県内で10位以内に入ってほしいと思う。

【市長】

各誌が発表するランキングは、何に焦点を当てるかによって結果が大きく変わる。女性自身におけるランキングは、市内の病院数や高齢者施策の予算額等が評価された結果であった。今後発表されるランキングについても、実施機関の視点によって順位が変わることはご理解いただきたい。

エ 小林東交差点北東の歩道改良について

【三木南地区】

当該道路は広野小学校の通学路であるため、急勾配の歩道で児童が転んで怪我をしないかと心配である。事故が起きてからでは遅いため、早期に対応いただきたい。

【都市整備部長】

凍結した場合等に危険であることは理解できるため、頂いたご意見を含めて引き続き県に要望していく。なお、完成して間もないため、早急に対応いただくことが難しいことはご理解いただきたい。

【三木南地区】

子ども5人が死傷した事故があった千葉県事例では、危険であるため対応してほしいという地域からの声があったにも関わらず、事故が起きてからガードレールが設置されていた。通学時に見守っていると、子どもは3列程度に広がって歩いている。当該箇所が危険であることを認識いただきたい。

【三木南地区】

郵便局前からの歩道について整備を要望した際、早期に事業着手してくださったことはありがたかった。

【市 長】

施工時に監視していれば防ぐことができたかもしれない。

【三木南地区】

3つの事業者に分かれて施工していたが、そのうち1つの事業者が原因であると考える。

【三木南地区】

3つの設計書を確認したが、設計当初は現状のような急勾配で計画されていなかった。車が入りやすいようにしてほしいという地権者等の意見により、現状の形になったと思われる。

【副市長】

市としても経緯等について確認させていただく。

オ その他

【三木南地区】

緊急事態宣言発令時、地域の活動等においては市の公共施設の対応に準じて対応しているため、宣言期間中は統一した対応をお願いしたい。9月末までの宣言期間にも関わらず、9月中旬に市立公民館を開館したことが理解できない。

【市 長】

市は県の対処方針に準じて対応するが、5月や9月上旬までの宣言期間中など、北播磨地域の感染者が増加傾向にある際は、市の判断で他市よりも厳しい基準で公共施設を閉館していた。なお、9月中旬には北播磨地域の感染者数が減少傾向にあったことから、公共施設を開館したという経緯がある。

【副市長】

個人情報保護の観点から、感染者本人の了承がない限り市内の感染者数は発表できないが、市で把握している感染状況のデータに基づき、市として判断している。

【三木南地区】

市内の感染状況等は市民にはわからないため、開館及び閉館の基準が分かりにくい。

【市 長】

今後、市の災害対策本部において対応を変更する方針が決まった際には、市民協働課から各区長に連絡することとする。

【市民協働課長】

緊急事態宣言発令等の大きな変化がある際には文書を送付させていただいていたが、市の公共施設に関する対応を基準に地域の集会所等も対応いただいているとのことから、今後、市の対応に変更がある場合は各区長に報告させていただく。

【三木南地区】

地域での周知に準備を要するため、変更する前日までにはご連絡いただきたい。

【市民協働課長】

市の対策本部会議で方針決定後に送付させていただくため、必然的に1日から2日程度連絡が遅れてしまう。もしお急ぎであれば、各公民館を通じて各区長に伝達後、正式に文書でご連絡するという方法もある。なお、各自治会において管理されている集会所等の開館方針を市で決定することはできないため、特にお知らせを行っていなかった。今後は各区長の判断基準としてご連絡させていただく。

【三木南地区】

地域の活動が多く、市の対応を判断基準にしているため、連絡をお願いしたい。

【三木南地区】

県のひょうご安全安心ネットに登録していれば、市の対応の通知が来る。

【市民協働課長】

アプリやメールで情報を入手できるため、ご活用いただきたい。

【三木南地区】

現在もしコロナウイルスに感染した場合、すぐに入院できるのか。

【市 長】

新型コロナウイルス感染症については、県が対応することが法律に定められている。もしコロナウイルスの陽性が判明した場合、県の加東健康福祉事務所から連絡があり、症状に鑑み入院か自宅療養か判断される。なお、北播磨地域では加西病院が受け入れることとなるが、現在は満床に近い状態で

はない。もし加西病院が満床になった場合でも、北播磨医療センター等で受け入れられる体制は整っている。

【副市長】

三木市の感染者については加東健康福祉事務所が担当しており、陽性者等の情報は市ではなく県の保健所が把握する。

【三木南地区】

市民としては、感染者の特定等をする目的ではなく、気をつける基準として市内の感染者数を知りたい。

【市長】

市としても情報提供してほしい気持ちは理解できるが、県としては感染者やその家族に対する誹謗中傷を懸念し、感染者数を公表できていない。

【副市長】

県は一定期間の経過により個人の特定が困難であると判断し、1か月に2回、感染者数をまとめて発表している。

【市長】

もともと1か月に1回しか発表されなかったが、市長会の強い要望により2回の頻度が増えた。なお、政令指定都市の神戸市や中核市の明石市、姫路市等は市で保健所を設置できるため、市内感染者数を発表できる。

【三木南地区】

北播磨医療センターにおいて妊婦の感染者を受け入れるというニュースがあったが、市としてPRがないため知らない人が多い。

【市長】

小野市がPRしていたが、感染者の入院先等は県が決定するため、市には受入の有無等の権限はない。北播磨医療センターの産婦人科医は、常勤が1人、非常勤が2人いるが、現状では妊婦の感染者を受け入れられる体制ではないと考える。

【副市長】

産婦人科と小児科が揃っていないと診察できない。北播磨医療センターは北播磨地域の高度救急医療を担っており、脳梗塞等の重篤な患者の受け入れを主に担当している。

【三木南地区】

妊婦の感染者を受け入れられる施設等を新たに整備したのかと誤解していた。